

奇跡のパン

マルコの福音書 6:31～44

2017年6月11日

1. 本当にあった出来事か

- (1) 四福音書に記録
- (2) 目撃者の証言
- (3) 自然な書き方
- (4) 「200デナリのパン」でも到底足りない人数（男だけで5千人）
- (5) 「十二のかごにいっぱい」残った i.e. 実際にパンが増えた



2. 作り話であったなら

- (1) 聖書は文字通り信じるに値しない
- (2) 聖書の「非神話化」(ルドルフ・ブルトマン)

イエス・セミナー（ロバート・ファンク） 投票で「真偽」を決める！

- イエスがそう言ったのは(またはそれらしいことを言ったのは) 確実である。
- イエスはおそらくそのようなことを言った。
- イエスはそうは言わなかったが、そこにはイエスの考えが含まれている。
- イエスはそのようなこと、またはそれに類したことを決して言っていない。

(3) 聖書の主張

ヨハネ 20:30～31

この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で示された。しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

3. キリストと群衆

- (1) 「羊飼いのいない羊のよう」 (Cf. 医師のいない患者、主君のいない侍、親のいない子ども…)
- (2) 「あわれみ」(Gk. 腸が千切れそうになり) 森本春子（山谷の労働者たちの母のように）
- (3) 「教え始められた」 考えることの大切さ
- (4) 「五つのパンと二匹の魚」 少年の弁当
だれかが捧げたからこそ



4. キリストと弟子たち

- (1) 「あなたがたで…上げなさい」 不能と向き合う
- (2) 「組にして」(食卓)「固まって」(敵のごとく)「すわらせ」(横たわらせ)
- (3) 「人々に配るように」 給仕 minister (大臣ではなく小臣)
- (4) 「十二のかごにいっぱい取り集め」 なぜ十二？



5. キリストと私たち

- (1) 私たちの羊飼い 「緑の牧場に伏させ」 He makes me to lie down in green pastures.
- (2) 私たちの主人 私たちはしもべ 民主主義の限界
- (3) 私たちの特権 私たちがいなければキリストのみわざは進まない
私たちは忘れられていない



マルコの福音書 6章 31～44節 【新改訳改訂第3版】

- 31 そこでイエスは彼らに、「さあ、あなたがただけで、寂しい所へ行って、しばらく休みなさい」と言われた。
人々の出入りが多くて、ゆっくり食事する時間さえなかったからである。
- 32 そこで彼らは、舟に乗って、自分たちだけで寂しい所へ行った。
- 33 ところが、多くの人々が、彼らの出て行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへ徒歩で駆けつけ、
彼らよりも先に着いてしまった。
- 34 イエスは、舟から上がられると、多くの群衆をご覧になった。
そして彼らが羊飼いのいない羊のようであるのを深くあわれみ、いろいろと教え始められた。
- 35 そのうち、もう時刻もおそくなったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。
「ここはへんびな所で、もう時刻もおそくなりました。」
- 36 みんなを解散させてください。
そして、近くの部落や村に行って何か食べる物をめいめいで買うようにさせてください。」
- 37 すると、彼らに答えて言われた。「あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」
そこで弟子たちは言った。
「私たちが出かけに行って、二百デナリものパンを買ってあの人たちに食べさせるように、ということでしょうか。」
- 38 するとイエスは彼らに言われた。「パンはどれぐらいありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて言った。
「五つです。それと魚が二匹です。」
- 39 イエスは、みなを、それぞれ組にして青草の上にすわらせるよう、弟子たちにお命じになった。
- 40 そこで人々は、百人、五十人と固まって席に着いた。
- 41 するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福を求め、パンを裂き、
人々に配るように弟子たちに与えられた。また、二匹の魚もみなに分けられた。
- 42 人々はみな、食べて満腹した。
- 43 そして、パン切れを十二のかごにいっぱい取り集め、魚の残りも取り集めた。
- 44 パンを食べたのは、男が五千人であった。